

- ・園地によってめしべ褐変等の凍霜害が確認されています。
摘果前に結実状況を確認しましょう。
- ・結実量が多い場合は、積極的に摘果剤を使用しましょう！

1 生育状況

表1 管内の主な地点における「ふじ」と「ジョナゴールド」の生態

地点	年度	ふじ			ジョナゴールド		
		開花始	満開日	落花日	開花始	満開日	落花日
前沢稲置	R6	4/21	4/26	4/30	-	-	-
	R5	4/17	4/23	4/29	-	-	-
	平年	4/27	5/2	5/6	-	-	-
	前年差	+4	+3	+1	-	-	-
	平年差	-6	-6	-6	-	-	-
江刺樽輪	R6	4/25	4/27	5/2	4/22	4/26	5/1
	R5	4/22	4/25	5/2	4/21	4/25	5/1
	平年	5/1	5/5	5/10	4/30	5/4	5/10
	前年差	+3	+2	0	+1	+1	0
	平年差	-6	-8	-8	-8	-8	-9
江刺伊手	R6	4/27	4/30	5/4	4/26	4/30	5/5
	R5	4/24	4/29	5/5	4/21	4/27	5/3
	平年	5/2	5/6	5/11	4/30	5/5	5/11
	前年差	+3	+1	-1	+5	+3	+2
	平年差	-5	-6	-7	-4	-5	-6

※平年は H26～R5 の 10 年平均値

表2 管内の主な地点における「紅ロマン」と「奥州ロマン」の生態

地点	年度	紅ロマン			奥州ロマン		
		開花始	満開日	落花日	開花始	満開日	落花日
前沢稲置	R6	4/17	4/21	4/26	4/21	4/26	4/30
江刺樽輪	R6	-	-	-	4/24	4/27	5/2
江刺伊手	R6	4/23	4/26	4/29	4/27	4/30	5/5

※平年は H26～R5 の 10 年平均値

2 摘果

(1) 基本的な摘果作業の進め方

- ア 摘果は、早い時期に行うほど良いので、主力品種や収益性の高い品種、摘果が遅れると果実肥大が劣りやすい品種などを優先して行う。
- イ 頂芽果でも肥大や形状が劣る果実は、できるだけ早く摘果する。

(2) あら摘果：満開30日頃までを目途に（5月中に終了を目標！）

- ア 短果枝～中果枝の頂芽で、果そう内で最も肥大・形状の良い果実を1つ残す。
- イ 形状の優劣は、正形か、果皮色・毛じは正常か、果梗の長さは適正で損傷がないか等で判断。ガクがしっかり閉じた果実、果梗（軸）が太くて長い果実、果台枝があり、葉が多い果そうの果実も残す果実の目安にする。
- ウ 20cmを超える長い枝の先端の果実、枝の直上、真下の果実、腋芽果、明らかに肥大や形状が劣る果そうは果そうごと全て摘果し、最終着果量の10～20%増しの量まで制限する。

【正常な中心果がある場合】 中心果を残し、側果は全て摘果。

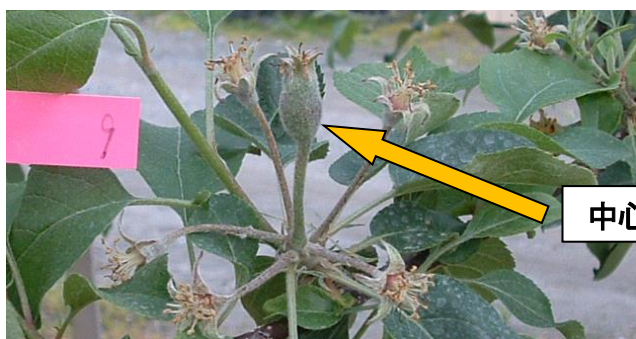


図1 落花後1週間～10日頃の果そう



図2 落花後3～4週間頃の果そう

【中心果がない場合、中心果より側果の生育が優れる場合】

側果の中で、最も肥大・形状が良く、障害がない果実を1つ残す。○：残す候補、×摘果



図3 中心果がない果そう

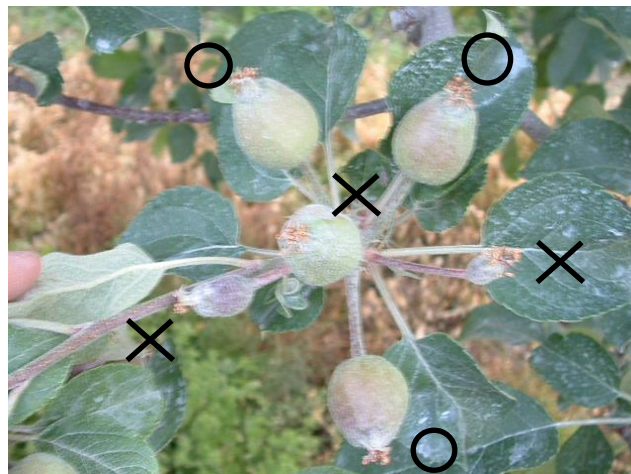


図4 中心果の肥大が劣る果そう

(3) 新品種のあら摘果について

- ア 「紅ロマン」のあら摘果は満開後2週間、仕上げ摘果は4週間（**今年は5/20頃**）を目安に終了する。
- イ 「奥州ロマン」のあら摘果は、落花10日（**今年は5/12頃**）を目安に終了する。摘果剤を併用する場合は、落花20日を目安に終了する。

(4) 摘果のポイント

- ア 摘果バサミを使用する場合は、摘果する果実の果梗（ジク）を極力短く切る。長い果梗（ジク）が残っていると、果実肥大時にキズがつきやすい。
- イ 摘果バサミを使わず、手で摘み取る場合は、果梗（ジク）を残す。

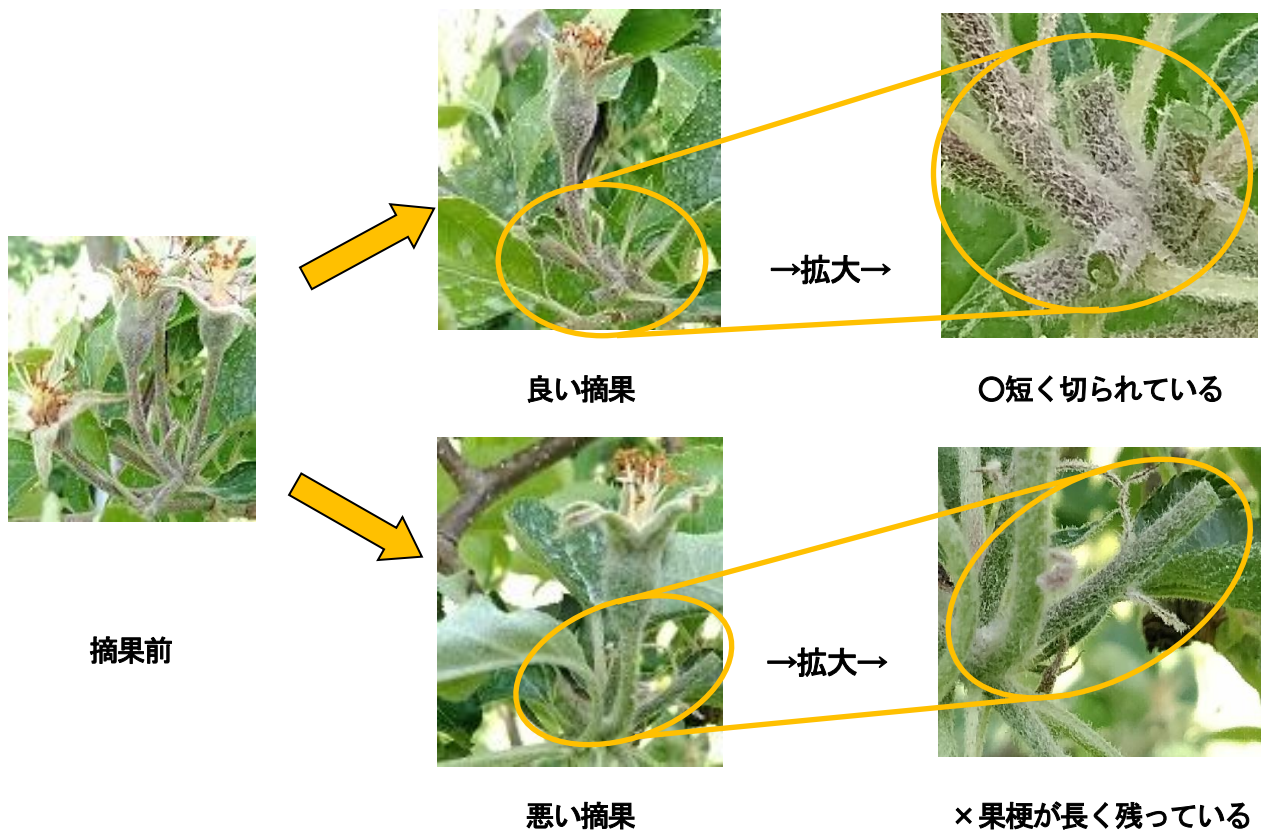


図5 摘果バサミによるあら摘果の留意点

摘果バサミを使わず、手で摘み取る場合は、果実だけとり、果梗を残します。
(無理に根本から果梗を取らない)

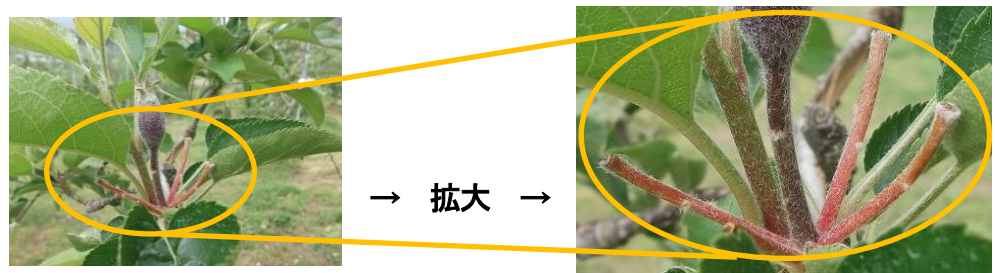


図6 手で摘み取る場合

(5) 仕上げ摘果：満開 60 日後までを目途に（7 月前半に終了を目標！）

ア 良質な果実のみを残し適正着果量まで摘果する。

表 3 主要品種の摘果強度と 1 果実あたりの葉数の目安（1 果そうを約 12 葉とした場合）

品 種	わい性樹	1 果あたり葉数
紅玉	4～5 頂芽に 1 果	およそ 50～60 枚
ふじ、王林、つがる、きおう、さんさ	5～6 頂芽に 1 果	およそ 60～70 枚
ジョナゴールド	6～7 頂芽に 1 果	およそ 70～85 枚

(6) 見直し摘果：仕上げ摘果終了後～

ア 奇形果や生育不良果は、見つけ次第、随時摘果する。

(7) 摘果剤の使用

ア 花数や結実量が多い、凍霜害が無いまたは軽微な園地では、積極的に使用する。

イ 樹勢不良の樹や若木、凍霜害などで受精が不完全な場合は過剰摘果となる場合があるため使用を避ける。

ウ 気温の高い日が続くタイミングで、十分量散布すると摘果剤の効果が出やすい。

エ 散布時期は、「満開後日数」と「中心果の横径」両方で判断する。「ふじ」の場合、頂芽の中心果の横径が 8～10 mm が目安。

オ 「はるか」は過剰摘果になる場合があるため、使用を控える。

カ 「紅ロマン」は摘果剤の効果発現前に生理落果するため、早期に人力で摘果を行う。

キ 「紅いわて」は、年次によってサビ果の発生が見られる場合があるので、散布時に果実表面が乾きにくいような気象条件下での使用は控える。

表 4 摘果剤散布の目安

品 種	使用時期など	備考
きおう、大夢、奥州ロマン シナノゴールド、ふじ	満開 2 週間後	ふじ同様に落果しにくい。 ⇒ふじと同時期のタイミングで散布。
もりのかがやき、 紅いわて、その他品種	満開 3 週間後	

表 5 満開日から予測した摘果剤散布の目安

	ふじ		ジョナゴールド	
	満開日	散布適期 (満開 2 週間後)	満開日	散布適期 (満開 3 週間後)
前沢 稲置	4 月 26 日	5 月 10 日	—	—
江刺 樽輪	4 月 27 日	5 月 11 日	4 月 26 日	5 月 17 日
江刺 伊手	4 月 30 日	5 月 14 日	4 月 30 日	5 月 21 日

3 その他の管理

(1) 新植樹の摘芯

- ア 苗木・幼木の主幹延長枝と競合する強勢な新梢を基部の葉2～3枚残して摘芯。
- イ 新梢伸長が旺盛な時期（5月下旬～6月）に複数回実施する。
- ウ 摘芯することで、発出角度の広い新梢が再伸長し、側枝の確保が容易になる。

(2) 徒長枝の整理

- ア 手でかきとれる時期に不要な徒長枝をせん除する。

(3) 衰弱樹の管理

- ア 野鼠被害等で、落花期以降に衰弱が確認された樹は、土寄せを行い、尿素等窒素肥料を施用し、発根を促すなど、樹勢回復に努める。
- イ 緊急的に樹勢を回復させたい場合は、尿素0.5%液を6～7月に葉面散布する。

4 病害虫防除

- (1) この時期は、「**褐斑病**」「**斑点落葉病**」「**炭そ病**」等**主要病害に感染する**。防除暦に従い、**計画的に防除**する。また、**十分な量の散布**を心がける。
- (2) 5～6月頃は、薬剤の乾きが遅いとサビ果の原因となるため注意する。
- (3) 「**腐らん病**」は、罹病部を見つけ次第処理し、切り口や削り取り部に薬剤を塗布する。また、**6月以降、病患部からの孢子飛散が多くなるため、5月中に処置を完了する**。せん除した枝や切り取った病幹部は、園地内に放置せず、処分を徹底する。
- (4) 「**黒星病**」の発病葉や発病果は、二次伝染源となるので、速やかに摘み取って園地外へ持ち出し、地中に埋没させる等して処分する。
- (5) 「**ナミハダニ**」は、ひこばえや徒長枝の葉、下草でも増殖するため、ひこばえや徒長枝をせん除するとともに下草の管理を適正に行い、発生密度低下に努める。殺ダニ剤を散布する場合はSSの速度を落とす等、薬液が樹冠内部まで十分到達するように特に配慮する。

～農作業安全！機械操作や熱中症に気を付けて作業しましょう！～